

実習船「白鷗」体験乗船（操船）会を開催

日本船主協会は、『海の日』特別行事实行委員会」が20回目の「海の日」を記念して展開する「海でつながるプロジェクト」の一環として、この夏、「船ってサイコ～せんきょう夏休みキャンペーン」と銘打ち、船に親しんで頂くための様々なイベントを展開しています。

2015年8月2日（日）、神戸大学海技教育センターのご協力のもと、『実習船「白鷗」体験乗船（操船）会』を開催しました。当日は、神戸大学海事科学部 廣野准教授、藤本准教授のご指導の下、7名の参加者を乗せ実習船「白鷗」で深江沖から和田岬まで神戸港を横断しながら港内見学を行いました。途中、阪神サイロに接岸して小麦を揚荷役中の「ばら積船」やKOBELCOの岸壁では、「鉄鉱石運搬船」の様子を間近に見学することが出来ました。さらに六甲アイランドに停泊中の「フェリー」や「多目的コンテナ船」、

ポートアイランドで荷役中の「フルコンテナ船」等々に加え、川崎重工業や三菱重工の岸壁では、建造中の艦船など一度に数え切れないほどの船を大変効率的に見ることが出来ました。復航時には、防波堤を出て、神戸空港沖合の海域で、教官の監督のもと参加者全員が、順番に「白鷗」の操船を実体験しました。猛暑日のクルージングとなりましたが、海から見る貨物船や神戸港の姿に大満足していただき、参加者から海運が今までより身近に感じられるようになったとのご意見を頂くことができました。



揚荷役中の「ばら積船」



大型の鉄石運搬船

引き続き当協会は、人々の日々の生活を支える外航船や内航船を広く知って頂くための活動を継続して参ります。